



第2章 歴史文化を活かしたまちづくり支援と自治体史の編纂協力

井上, 舞 ; 奥村, 弘 ; 河島, 真 ; 市沢, 哲 ; 木村, 修二 ; 加藤, 明恵 ; 室山, 京子 ; 松下, 正和 ; 松本, 充弘

(Citation)

歴史文化に基礎をおいた地域社会形成のための自治体等との連携事業, 17 (平成30年度事業報告書) :31-44

(Issue Date)

2019-03-22

(Resource Type)

report part

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/81012145>



第2章

歴史文化を活かしたまちづくり支援と自治体史の編纂協力

兵庫県文化遺産防災研修会

兵庫県文化遺産防災研修会は、地震や風水害などの自然災害から地域の文化財や展示物を守るため、兵庫県内の文化財担当職員や博物館・資料館学芸員らが一同に会し、防災対策を話し合い、大規模災害発生時の一時保管や修復などの県内相互支援体制の構築に向けた、情報共有の場として企画されたものである。昨年度は7月5日に神戸大学においてキックオフ研修会が、また11月28日には姫路市内において西播磨研修会が開催された。

今年度については研修会を実施することができなかったが、今後、文化財保護法の改正を踏まえて、より具体的に文化財防災を考えていくための研修会を開催していくために、3月に関係者間の連絡会を開催予定である。また、この連絡会での協議を踏まえ、次年度以降、引き続き防災研修会を開催していく予定である。

(文責・井上舞)

兵庫県地域創成局地域遺産課との連携

兵庫県は、昨年度に地域遺産活用方策検討委員

会設置要綱を策定し、県内の地域遺産のデータベース化を行なうとともに、その活用方針を検討し、県民のふるさと意識の醸成と地域活性化を図ることを目的として、地域遺産活用方策委員会を設置した。この委員会の委員長に奥村が就任した。当初は昨年度のみの予定であったが、今年度も引き続き委員会での討議が続けられた。今年度は8月27日に委員会が開催された。

このほか、県政資料館（仮称）基本計画策定委員会の委員長として、7月26日・11月1日・3月5日に委員会を開催した。また、2月2日に開催された、兵庫県、神戸新聞社主催の兵庫津シンポジウムのコーディネーターを務めた。

(文責・奥村弘)

神戸市との連携事業

1. 神戸市文書館との連携事業

神戸市文書館との間で、2006年度から共同研究「歴史資料の公開に関する研究」を継続して行っている。今年度の事業内容は、①神戸市文書館に収集・所蔵される歴史史料の整理、調査、さらに公開、活用のための土台作り、②神戸市文書館の来館者に対するレファレンスサービス（特に古文書の解読）であった。毎年行っている企画展は、今年度は開催されなかったが、代わりに紀要『神戸の歴史』第27号（2018年12月発行）の編集に協力し、研究員の津熊友輔氏（神戸大学大学院

人文学研究科博士課程後期課程)が、文書館所蔵文書を使い、研究論文「伊藤博文銅像・台座と大倉山公園」を執筆した。

また、地域連携センター事業責任者・奥村弘らが監修を務める『新修神戸市史』生活文化編の執筆が進められた。

(文責・河島真)

2. 神戸村文書の研究と成果の公開事業

神戸市立中央図書館が所蔵している神戸村文書について、読解、研究を行った。また、成果の普及のため、11月12日・19日・26日にこうべまちづくり会館において、12月1日に神戸市立中央図書館において「神戸村文書を読む会」を開催したほか、2019年3月17日に成果報告としての講演会を行った。

(文責・市沢哲)

包括協定にもとづく灘区との連携事業

本年度は灘区と連携した活動はなかった。なお、2019年2月現在の『篠原の昔と今』(2005年度発行)、『水道筋周辺地域のむかし』(2006年度)の残部は共に約200部となっている。学外の郵送依頼は少なかったが、むしろ学内からの送付依頼がしばしばみられた。

(文責・木村修二)

神戸市を中心とする文献資料所在確認調査

1. 神戸市を中心とする文献資料所在確認調査

今年度本事業に関連する新規および継続中の調

査はなかった。

(文責・木村修二)

2. 神戸大学附属図書館との連携

(1) 郷土文書の整理

前年度に引き続き、人文学研究科院生で日本中世史専攻の山本康司君に文書の整理作業に当たってもらった。本年度の成果としては、「久宝寺屋文書」の整理が完了し、附属図書館HPデジタルアーカイブ「神戸大学附属図書館所蔵郷土文書類目録」に近々アップされる予定である。一方で、いわゆる「古文書」と名付けられている文書群とは別に雑多な文書が保管されていたため、これらも今後は「古文書」の補遺として追加するとともに、「古文書」としてアップ済みの文書群についても、再整理作業を行っており、年度はまたいでしまうがまもなく作業が終わる見込みである。また、昭和40年代以来、「神戸開港文書」として整理されてきた明治維新前後の神戸に関する文書群があるが、これまでに把握され目録化されているものから漏れているものが見いだされたので、それについても神戸開港文書補遺として追加整理を行っている。これらはいずれも、山本君による整理作業と解題執筆が完了次第、図書館のHP上にアップして行く予定である。

なお、今年度中に民間の団体から篠原村にゆかりのある故若林泰氏収集文書の一部が附属図書館に寄贈されることになった。この史料群は今後燻蒸を経て、入庫することになる。すでに目録作成と写真撮影がなされているが、目録については、公開へ向けて、図書館データベースとして統一的な仕様に修正をしたうえで、公開を目指すことになったが、その作業も今後この連携事業の中で行ってゆくことが図書館と当センターとの協議の中で確認されている。また、再来年度を目処に、若林氏収集文書を中心とする展示を図書館で行うことも確認された。

(文責・木村修二)

財団法人住吉学園との連携事業

本年度より、2018年4月1日に発足した住吉歴史資料調査会（神戸市東灘区・住吉歴史資料館内）との連携事業を開始し、専門委員として同会の調査活動に関わった。連携事業開始にあたって、同会と神戸大学大学院人文学研究科地域連携センターとの間で申し合わせを取り交わした。

調査活動においては、主に住吉村横田家文書（本住吉神社所蔵）および摂津国兔原郡住吉村文書（大阪歴史博物館所蔵）の翻刻を行ったほか、本学人文学研究科古市晃准教授の協力を得て、吉田家（神戸市東灘区御影）所蔵史料について概要調査・目録作成を行った。

また、5月24日・6月28日・8月30日・9月27日・10月25日・11月29日・1月31日に菟原茶道会・同会員・地域住民から参加者を募り古文書勉強会を行った。11月8日には、住吉中学校トライやるウィークのため住吉歴史資料館が受け入れた生徒2名に対し、古文書の取り扱い・読解についてのレクチャーを行った。

（文責・加藤明恵）

大学協定にもとづく小野市との連携事業

昨年度より開始した「小野地区歴史調査及び伊藤家文書を活用した小野市幕末・明治期の歴史研究」という課題名による連携事業に本年度も引き続き取り組んだ。2019年4月20日～6月23日に開催予定の「明治150年」記念企画展「竹橋事件と小野」に際しての史料展示の実施協力として、伊藤家文書の解説に取り組んでいる。8月24日・25日には、小野市立好古館において、奥

村弘氏・津熊友輔氏（本学人文学研究科博士課程）・出水清之助氏（同）が伊藤家文書の調査を行った。

小野地区歴史調査に関しては、8月24日・25日に小野市立好古館において、加藤明恵が近世に小野町年寄を務めた家である梶原家文書の調査を行い、近世中後期の町年寄勤務記録の分析を行った。調査成果は、小野市立好古館平成30年度特別展「小野藩陣屋町と村の暮らし」（主催：神戸大学大学院人文学研究科地域連携センター・小野市立好古館、会期：10/20～12/24）の関連講演会「町年寄勤務記録がかたる小野藩陣屋町」（11月25日、於コミュニティセンターおの）において発表した。

（文責・加藤明恵）

連携協定にもとづく朝来市との連携事業

2005年3月に朝来郡生野町と締結された協定は、同年4月の市町村合併により朝来市に引き継がれた。以降、市域所在資料の整理・調査・活用に取り組んでいる。今年度は、次のような事業に取り組んだ。

1. 民間所在資料の調査・整理

・石川家文書整理会

2015年より、地域住民とともに石川家外蔵文書の整理に取り組んでいる。今年度も昨年度に引き続き蔵書の整理に取り組んだ。整理会は月2回（第2、第4火曜）開催で、目録作成と写真撮影を行っている。作成した目録については石橋知之（神戸大学院生）がチェック作業を行った。今年度の成果について、3月末に蔵書目録を発行予定である。蔵書目録の発行にあたっては、平成30年度但馬地域活性化推進事業の助成を受けることになっている。

・山田家文書の調査・整理

山田家文書のうち、鉱山関係資料と生野銀行関

係の目録作成を行った。次年度以降も継続して目録作成を行っていく予定である。

・多々良木区有文書の調査・整理

昨年度より、地域住民とともに取り組んでいる多々良木区有文書の整理について、今年度も月1回のペースで実施した。この間の活動で、約200点の目録を作成し、60点の写真を撮影した。また、これまでの調査成果を周知するために、次年度展示会が企画されている。この準備のため、2019年1月以降の整理会は資料整理を休止し、資料の翻刻に取り組んでいる。

・生野書院寄贈資料の調査

昨年度生野書院に寄贈された、明治期の引札が貼られた板の調査を行い、あわせて板から引札を剥がす作業を行った。作業は1月14日に松下正和（地域連携推進室）、井上舞、小椋俊司（生野書院館長）の3名で実施した。

2. 生野書院企画展への協力

生野書院では毎年秋に企画展が開催されている。地域連携センターは昨年度より展示協力を行っている。今年度の企画展「石川魚連の挑戦」（2018年10月27日～12月2日）でも、これまでの石川家文書調査の成果を活かし、展示資料の選定や、資料翻刻等の協力を行った。

3. 奥銀谷自治協議会展示への協力

奥銀谷自治協議会では、2014年以降、毎年3月に奥銀谷地域の資料を用いた展示会を開催している（地域連携センター共催）。今年度は1.で調査した明治期の引札が奥銀谷地域で見られたこともあり、これに関する展示を行った。



（文責・井上舞）

丹波市との連携事業

神戸大学大学院人文学研究科と丹波市は2007年度に協定を締結した。以降、市域所在資料について調査・保全・活用に取り組んでいる。今年度については、次のような事業に取り組んだ。

1. 歴史講座および古文書相談会の開催

昨年度に引き続き、歴史講座を開催した。今年度は「丹波の歴史を知る・つなぐ」をテーマとし、以下の日程で開催した。また、古文書相談会も同時に開催した。今年度は第2回講座において1件の相談があったほか、自身が読んでいる古文書を持参され、文字が読めない箇所があるので読んで欲しいといった相談も数件あった。

- ・7月21日：西岡真理「遺跡発掘調査速報2018」於山南住民センター
- ・8月18日：堀尾尚志「棚原村肝煎・久下家の文書を読む―農稼奨励と財テクー」於春日住民センター
- ※なお、当日隣接する春日町歴史民俗資料館で、講演に関連する資料のミニ展示を実施した。
- ・9月22日：山内順子「氷上郡湯長谷藩領下の在地代官について」於ライフピアいちじま
- ・12月22日：出水清之助「江戸・明治山垣村の史料を読む」於青垣住民センター
- ・1月19日：『ふるさと丹波の歴史を読む』刊行記念シンポジウム

（文責・井上舞）

2. 丹波市内古文書調査

本年度は下記の通り市内文書調査を実施した。

- ① 2018年6月16-17日（土）青垣町足立家文書調査
- ② 7月14日（土）春日町棚原区有文書調査
- ③ 8月19日（日）久下家文書調査

- ④ 8月25日（金） 棚原区有文書調査
- ⑤ 9月1-2日（土-日） 細見家文書調査
- ⑥ 12月24-25日（土-日） 春日町棚原区有文書調査・柏原歴史民俗資料館調査
- ⑦ 2月9日（土） 棚原区有文書調査
- ⑧ 3月19日（火） 棚原区有文書調査

（文責・木村修二）

なお、春日町棚原での調査では、既調査資料の活用を図るため、区所有の絵図の修復を行った。絵図は傷みが激しかったため、工房レストアに依頼し修復を行った。この間に棚原地区の住民が修復の見学を行った。修復を終えた絵図は1月9日に棚原に届けられた。この際、松下正和が地域住民に絵図の解説を行った。

（文責・井上舞）

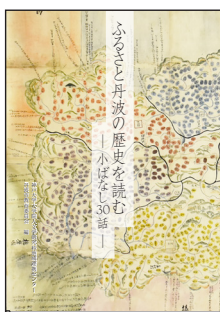
3. 氷上古文書倶楽部への協力

本年度は、1月12日（土）より氷上区有文書の解説会を再開した。氷上区有文書・箱1-68「一札之事」を読み、解釈などについて話し合った。講師は加藤明恵が務めた。参加者は15名であった。なお、解説会は2～3ヶ月に1度の開催を予定している。

（文責・加藤明恵）

4. 研究成果物の発表

神戸大学と丹波市との連携10周年を記念して、これまで丹波市の広報誌『広報たんば』で連載してきたコラムのうち、30話を抜き出して『ふるさと丹波の歴史を読む—小ばなし30話—』としてまとめた。



（文責・井上舞）

5. 丹波古文書倶楽部への協力

本年度も毎月第2土曜日に丹波市内の住民センターを会場に例会が開催され（8月は休会）、木村がチューターを務めた。なお、12月の例会後には、倶楽部主催のフィールドワークが開催され、篠山市内の施設の見学などをおこなった。

連携協定にもとづく加西市との共同事業

加西市と神戸大学との連携協定は、2009年5月16日に締結された。これにもとづき、今年度は次のような事業に取り組んだ。

1. 青野原俘虜収容所に関する資料調査

第一次世界大戦中に加西市に設置された青野原俘虜収容所については、当初小野市好古館との事業において、写真資料等の調査が行われていた。2012年度以降は加西市立図書館郷土資料係、2015年度以降は同市教育委員会生涯学習課市史文化財係と共同調査を行っている。2018年度は、次のような事業に取り組んだ。

- ・外務省外交史料館、防衛省防衛研究所所蔵資料の調査

両館に所蔵されている青野原捕虜収容所関連史料について、石井大輔（神戸大学非常勤）が調査・撮影を行った。また、これらの資料については、下記に示すデータベース上で利用できるようにした。

- ・捕虜が残した日記の翻刻作業

今年度、大津留敦（神戸大学名誉教授）の調査により、新たに捕虜が残したルーマニア語の日記が発見された。これについて、アントン・アリーナ・エレナ（神戸大学大学院人文学研究科特任講師）が日本語訳を行った。今年度、日記の前半部分の翻訳が完了した。次年度以降も引き続き翻訳作業を行っていく。

この他に、次のような事業を行った。

- ・加西市ホームページのうち、青野原捕虜収容所関連ページの英訳
- ・これまでの調査資料をまとめたデータベースの作成

2. 中学生用冊子の作成

これまでの青野原俘虜収容所調査の成果について、地域の中学生に知ってもらうべく、中学生用の冊子『青野原捕虜収容所と加西市』を作成した。冊子は一昨年度の成果物として作成した「加西に捕虜がいた頃—青野原捕虜収容所の世界—」をベースに、石井大輔が作成した。また、収容所に関わる資料を紹介した『青野原捕虜収容所と加西市 別冊：捕虜が記した100年前』の作成を井上舞が担当した。これらは市内の中学校に配布される予定である。

3. 加西市域所在資料活用への支援

・加西市北条町小谷地区

小谷地区は昨年度に地域調査を実施し、その成果は『わたしたちの小谷—残された歴史遺産をたどる—』にまとめられている。この際、同地区にある陽松寺という曹洞宗寺院の住職が、歴代住職の事跡を記した『伝董誌』という資料を活用した。今年度は、陽松寺護持会を中心に「『伝董誌』を読む会」が開催された。実施日は6月9日・23日・7月21日・9月29日・10月20日・10月27日・11月11日の計7回で、井上舞が講師を務めた。

・宇仁郷歴史資料館所蔵資料の整理

加西市油谷地区にある宇仁郷歴史資料館では、加西市出身の郷土史家である吉田〇〇氏蔵書の寄贈を受けた。ただし、蔵書目録がなかったため、これを地域で活用するための整理作業が必要となった。5月9日に同館で井上舞・萩原康仁（加西市教育委員会）、および同館の運営委員が協議し、基本的な整理方針をたてた。また、その後運営委員会が作成したリストについて、井上がチェック作業を行った。

（文責・井上舞）

尼崎市における連携事業

本年も引き続き、尼崎市立地域研究史料館の専門委員を務め、地域資料の活用について助言を行った。

（文責・市澤哲）

三木市での連携事業

1. 三木市史編さん支援事業

2016年度より三木市教育委員会教育企画部文化スポーツ振興課市史編さんグループで進められてきた新三木市史編さん事業は、機構改革により今年度はじめより三木市役所総務部市史編さん室で進められることになった。神戸大学との関わりは、これまでとかわらず今年度も「受託型協力研究」として特命教員を派遣してきたが、9月末でこれまでの川内淳史から木村修二に交替した。

通史編については、機構改革の影響などもあり調査費用の執行に大幅な遅れが生じ、各部会の調査活動が進まなかった。そのためもあって新三木市史の刊行計画にも大きな変更があった。具体的には、資料編の古代・中世編が、1年先送りとなり、玉突きのような形で他巻へも影響があった。改革の一環で刊行最終年度が1年前倒しとなったため通史編本編にも影響があった。刊行計画の変更は、むしろ地域編のほうへ多大な影響を及ぼし、平成31年度より向こう10年計画で10巻発行の予定が、平成36年度までに10巻すべてを発行するという事になった。具体的には、平成31年度、32年度は1冊ずつであるが、33年度からは年に2冊の地域編を発行するというものである。この

ため、ただでさえ少ないスタッフにかかる作業が増大することが必至で、編さん委員会として、三木市当局のほうへ職員の増員などを要請され、市長からも増員の言質はえたものの、具体的には人員不足を理由に実質的に増員が進んでいないのが現状である。

①市史編さん委員会

- ・8月27日 於 みき歴史資料館
- ・11月22日 於 みき歴史資料館

②通史編専門委員会

- ・11月6日 於 みき歴史資料館
- ・2019年3月27日予定 於 みき歴史資料館

③地域編専門委員会

- ・2019年1月10日 於 みき歴史資料館

三木市史編さん事業の調査研究活動については、各専門委員会に配置された部会単位で行われる。通史編専門部会については古代、中世、近世、近代、現代、文化遺産、考古、自然環境の8部会で構成され、各部会ごとに今後の調査方針等について議論が交わされたが、前記のとおり機構改革の影響もあって、今年度中に開催されない部会協議(近代・現代部会)もあり、開催された部会も予算措置が一応確立した年度後期に開催された。通史編各部会の活動状況については下記の通りである。

- ・4月17日 第1回文化遺産部会 於市史編さん室
- ・6月27日 第2回文化遺産部会 於市史編さん室
- ・8月6日 第1回中世部会 於市史編さん室
- ・8月21日 第1回考古部会 於大阪大学
- ・9月16日 第1回近世部会 於市史編さん室
- ・9月18日 第1回古代部会 於神戸大学
- ・12月3日 第3回文化遺産部会
- ・12/12 自然
- ・2019年1月11日 文化遺産部会京都国立博物館調査
- ・1月14日 第2回中世史部会
- ・2月23日 第2回近世部会予定
- ・3月7日 第2回古代部会予定

地域編の調査研究活動については、地域住民を中心とする地域部会によって担われている。今年度は、口吉川部会、志染部会に加え、新たに吉川部会と緑が丘部会の活動が開始された。各地域部会では地域編編さんに向けて、月1回程度の協議のほか、地域内の史料や文化遺産の調査に取り組んでいる。地域部会の活動については下記の通りである。

①口吉川部会

- ・2018年3月30日 第13回口吉川部会
- ・4月20日 第14回口吉川部会
- ・5月17日 第15回口吉川部会
- ・6月21日 第16回口吉川部会
- ・7月19日 第17回口吉川部会
- ・8月23日 第18回口吉川部会
- ・9月20日 第19回口吉川部会
- ・10月25日 第20回口吉川部会
- ・11月29日 第21回口吉川部会
- ・12月11日 東中・長谷川家文書調査
- ・12月20日 第22回口吉川部会
- ・2019年1月22日 第23回口吉川部会
- ・2月26日 第24回口吉川部会予定
- ・3月12日 第25回口吉川部会予定

②志染部会

- ・2018年2月22日 第4回志染部会
- ・3月22日 第5回志染部会
- ・4月19日 第6回志染部会
- ・5月31日 第7回志染部会
- ・6月28日 第8回志染部会
- ・7月25日 第9回志染部会
- ・8月30日 第10回志染部会
- ・9月27日 第11回志染部会
- ・11月1日 第11回志染部会
- ・12月6日 第12回志染部会
- ・2019年1月17日 第13回志染部会
- ・2月21日 第14回志染部会予定
- ・3月14日 第15回志染部会予定

③吉川部会

- ・12月11日 第1回吉川部会

- ・2019年1月25日 第2回吉川部会
- ・2月22日 第3回吉川部会予定
- ・3月22日 第4回吉川部会予定

④緑が丘部会

- ・12月20日 第1回緑が丘部会
- ・2019年1月31日 第2回緑が丘部会
- ・2月27日 第3回緑が丘部会予定
- ・3月29日 第4回緑が丘部会予定

その他の作業としては、三木市において雇用された「市史専門員」および「市史編さんボランティア」を中心として、市内自治会や旧家における史料調査・整理を実施した。また、市史編さん事業の成果の一端を示すため、2019年2月2日より3月24日まで三木市立みき歴史資料館の企画展として「地域の史料たち3—口吉川の近世—」と題する展示が開催される予定である。この企画展は、昨年度まで市史編さんグループとして取り組んできたが、今年度より市史編さん室は情報の提供をおこない、基本的には資料館の学芸員がプロデュースすることになった。なお、関連企画として、2019年3月2日に「市史編さん事業の成果と展望」と題した講演会が開催される予定である。

また、2019年2月17日～18日には昨年に引き続き旧玉置家住宅において神戸大学古文書合宿が開催予定であるなど、大学教育と市史編さん事業との連携活動も進んでいる。

市史編さん事業に関わる今年度の刊行物としては、『市史編さんだより』第6号(11月30日)および市史編さん紀要『市史研究みき』第4号(3月発行予定)がある。

2. 商工観光課との連携事業

2010年度より文化庁の地域伝統文化総合活性化事業(「三木市文化遺産総合活用活性化事業」)として、市民グループ「旧玉置家住宅文書保存会」による襖下張り文書保存活動が行われたが、事業終了後も市民グループ主体の活動が維持され、三木市商工観光課とともに同会の活動支援を実施している。

3. 三木市立みき歴史資料館

三木市立みき歴史資料館の事業について、館長の諮問機関である「みき歴史資料館協議会」の委員(会長)として参画し、同館の運営等に関わる助言を行った。

(文責・木村修二)

三田市との連携事業

本年度も、継続して旧三田藩主九鬼家資料の総合調査を実施した。昨年度より、慶長期の鳥羽藩九鬼家の藩政に関する藩主直筆書簡につき、目録を作成中である。これらの書簡は昨年度に文化財指定も視野に入れた精細な写真撮影(堀内カラー協力)を完了させており、目録とあわせて、デジタルアーカイブ化して市民の利用に供したいと考えている。

(文責・奥村弘)

伊丹市における連携事業

1. 小西酒造株式会社所蔵資料をめぐる事業

小西酒造株式会社が所蔵する「小西家萬歳蔵資料」の目録化と撮影を進めた。本調査は科学研究費補助金基盤研究(B)「小西家資料の総合的研究」(研究代表者飯塚一幸、分担研究者奥村弘ほか、平成26年～30年度)にもとづく研究プロジェクトとも連携して、月1回のペースでおこなわれた。

(文責・奥村弘)

1. 篠山市立中央図書館「地域資料整理サポーター」の活動支援

地域資料整理サポーターは、平成25年度に結成され、平成26年度より「丹南町史編纂史料」の目録作成を進めている。今年度も、2018年6月17日、7月15日、9月16日、10月21日、11月18日、2019年1月20日の計6回にわたり、サポーター活動の支援をおこなった。なお、今年度より人文学研究科博士課程前期課程の田中昇一君に助力を仰ぎ、サポーターへの助言等をお願いしている。

「丹南町史編纂史料」は、自治体史編纂時に収集・作成された複写物が大半を占めているため、出納などの取り扱い作業が容易である。なおかつ、当時の編纂担当者によって作成された翻刻文が付されているものも多く、古文書解読の入門テキストには好適といえる。「丹南町史編纂史料」を「図書館資料」として、幅広い市民による利活用につなげることがサポーター活動の目的地とすれば、本史料群は大きな可能性を秘めたものといえることができる。

一方、整理作業が5年目を迎え、サポーター活動の中で蓄積された目録カードには内容の粗密が目立ってきている。町史編纂時の翻刻文についても、誤読と思われる箇所が少なくなく、活動の中心はこれらの「チェック作業」に移ってきているといえるだろう。

篠山市立中央図書館では原則毎週水曜日に、有志のサポーターによって目録カードや翻刻文のパソコン入力・校正作業が進められている。このような日常的活動が継続される一方で、サポーター側からは、これらの作業の前提となる古文書解読についても習熟したいという要望が高まってきていたことから、今年度の活動日には毎回史料を1

点ずつ選び、その時の参加者で輪読することも試みた。輪読をおこなうことで、豊かな歴史資料の内容に触れることができたのはもちろん、目録カードや翻刻文を作成・校正する上でのポイントを確認することができた。この輪読は今後も継続し、サポーター活動の成果発信（具体的には図書館内での展示等を想定）にもつなげていきたいと考えている。

旧丹南町は、現在の篠山市を構成する一地区ではあるものの、市内では最も充実した自治体史の蓄積を持っている。年6回という限られた回数ではあるが、その中で最大限の成果を挙げることができるよう、次年度も活動支援の方法を工夫することに努めていきたい。

2. 古文書合宿の実施

文学部「地域歴史遺産保全活用演習」および文学研究科「地域歴史遺産保全〔企画〕演習」等の授業（通称：古文書合宿）を、農学部篠山フィールドステーションにおいて、2018年9月13日～9月15日の2泊3日で実施した。本合宿は、史学専攻の学生や将来博物館学芸員をめざす学生が、近年保存・活用のニーズが高い地域歴史資料について、その基本的な整理作業能力の習得をめざすものである。

今年度は、篠山市立歴史美術館所蔵の「山田家文書」および「中川家文書」の整理作業をおこなった。両史料群は、郷土史家の中野卓郎氏が仲介の労をとり、歴史美術館に所蔵されることとなったものである。山田家は篠山藩領内の大庄屋組である泉組の大庄屋を務める家柄で、中川家は藩士の家にかかる文書として貴重なものである。これらについては中野氏によって付番と封筒詰めなどの整理作業がおこなわれ、主要史料については翻刻文も付されている。ただ、目録が史料の概要を記したものに留まっていたため、文書閲覧者に供するために本合宿のなかで詳細目録を作成することとした。

3日間を通じて、おおよそそれぞれの文書群の3分の1から半分程度については詳細目録を作成

することができ、最終日の9月15日には成果報告会も実施された。この時には中野氏もお越しになり、史料を搬出した経緯や自治体史編纂の経験などについてお話しいただく機会も設けられた。

3. 篠山市立中央公民館主催「古文書入門講座」への出講

古文書入門講座は篠山市民を対象として年8回、古文書の読み解き方について講義をおこなうものである。市側の担当者は、地域コミュニティ課の河野克人氏である。受講生は5年を上限として、講座への参加を継続することができる。地域連携協定に基づいた活動ではないが、担当者の松本が前任者（大阪市史料調査会の松本望氏）から引き継ぎを受けて、平成29年度より2回の講座を担当している。内容面でこれまでおこなってきた連携事業と密接に関わることから、本報告書にも記載することとする。

今年度は、2018年8月6日の第3回と9月3日の第4回を担当し、それぞれ篠山市立歴史美術館所蔵山田家文書、丹南町史編纂史料の内より園田家文書を使用して講座をおこなった。また、2018年11月5日、篠山市川西の西誓寺で実施された現地研修会にも参加した。

4. 「部落史研究会ささやま」の活動支援

「部落史研究会ささやま」は、篠山市文化財保護審議会会長の今井進氏が代表を務め、毎月2回実施している（毎月1回目に会員での解説、2回目に校正）。市側からは、市民生活部人権推進課の東田良子氏がこれを支援している。この研究会が発足した原点には、既刊の自治体史に被差別部落の歴史が立項されていないことに対する問題意識があった。地域連携協定に基づいた活動ではないが、担当者の松本が2018年1月17日に篠山市立中央図書館で開催された地域史料講演会を契機に今井氏よりお誘いいただいたことで、今年度より参加しているものである。

今年度は、西誓寺文書の内から、かわた村の服装規定に関する史料や、幕末期の分村にかかる史

料を解説した。加えて、青山歴史村所蔵の藩政日記から、天保3年（1832）の雨乞にかかる記述を中心に輪読を進めている。

5. 「第13回篠山市・神戸大学地域連携フォーラム」での活動報告

2019年1月26日（土）に、篠山市細工所のハートピアセンターで開催された「第13回篠山市・神戸大学地域連携フォーラム」において、松本より「人文学研究科の活動報告と進出史料の紹介」に関する報告をおこなった。ここでは、上記1～4の活動内容について報告するとともに、篠山市立歴史美術館所蔵山田家文書から、614「太功記十段目」の史料紹介をおこなった。これは万延元年（1860）に起きた全藩的な百姓一揆を、当時流行した『絵本太功記』になぞらえてパロディ化したものである。本史料については篠山市立中央公民館主催の古文書入門講座でも取り上げたもので、反響が大きかったためフォーラムでも紹介することとした。

（文責・松本充弘）

明石市との連携事業

1. 明石藩関連資料調査・公開業務委託

明石市立文化博物館では、2013年より同館所蔵の黒田家文書および明石藩関係史料の整理・分析成果の公開のため、毎年企画展「明石藩の世界」を開催している。今年度は「明石藩の世界VI―藩領を行き交う人とモノ」（会期：9月15日～10月21日）として、地域連携センターが展示の立案・構成などの協力を行った。本展示については、前田結城が準備を担当し、図録に掲載する解説の執筆などを行なった。また、昨年度調査を行なった安藤家文書からも、関連資料を展示した。

また、2月19日・20日には加藤明恵が、愛知県

立文書館において県外所在の明石藩関連資料の調査を行った。

2. 明石市における地域資料の調査研究

・西島農会文書、卜部家文書調査

今年度の地域資料調査では、明石市大久保町の西島農会文書と、卜部家文書の調査を行なった。

西島農会文書については、7月15日・8月27日・10月21日・2019年1月27日の計4回調査を実施し、目録作成と写真撮影を行った。未調査資料がまだ残っているため、次年度も引き続き調査を継続する。

卜部家文書については、同家の文書を借用し目録作成と写真撮影を行うことになった。7月28日に卜部家で予備調査を行った結果、全ての文書を一度に借用することは難しいと判断したため、まず全体の1/3の資料を借用することにし、10月28日に搬出作業を行った。その後、11月18日、2019年1月26日に明石市史編さん室において、調査を実施した。こちらについても、借用分の調査が完了していないため、次年度引き続き調査を行っていく。

(文責・井上舞)

・安藤家成果報告会

本センターでは、明石市との連携事業において安藤家文書調査を進めてきた。調査成果の地元住民への発表として、11月24日に大久保小学校区コミュニティセンターにおいて、「古文書からみる大久保町の歴史—安藤家文書調査報告会」を開催した(主催：大久保まちづくり協議会・明石市史編さん委員会・神戸大学大学院人文学研究科地域連携センター)。

報告に先立って、大久保町自治会長の安藤昌弘氏より挨拶があった。報告は、奥村弘氏が「地域資料調査の目的と意義」を、義根益美氏(明石市史文化博物館)が「安藤家文書の概要と特色」を、津熊友輔氏・出水清之助氏が「近世の大久保町—「町方同様」の地域をめぐって—」を、長町顕氏・茶谷翔氏(本学人文学研究科博士課程)が「近代史料に見える大久保町」をそれぞれ報告した。進

行は加藤明恵が務めた。参加者は約70名で、盛会であった。報告内容については、明石市史紀要『明石の歴史』第2号に掲載予定である。

(文責・加藤明恵)

たつの市との連携事業

神戸大学近世地域史研究会は原則月1回日曜日に開催している。構成メンバーは、阪神地域・播磨地域・大阪府内在住の約15名の市民の方々と、主な活動は古文書翻刻作業のための読み合わせである。昨年度に引き続きたつの市龍野町所在善龍寺所蔵文書の翻刻に取り組んでいる。翻刻テキストは寺送り、仙石騒動裁許の書留である。

同研究会では割り振られた担当箇所を発表する形をとっており、報告担当者は翻刻文を読みあげるだけでなく、内容を理解するため語句や関連文献を調べて発表をおこなう。参加者が疑問や質問など自由に発言しやすい雰囲気づくりを心がけている。なお今年度4月から学習の振り返りができるように「会報」を作成し参加者に配布することにした。「会報」は例会で話題になったことや関連行事の案内等を記載し、備忘および情報共有の促進を目的としている。また以前から課題であった学生参加については、2018年10月より大学院生1名がメンバーに加わった。今後も世代間交流を生み出す学びの場となるよう、学生に対する参加の呼びかけをおこなっていききたい。

(文責・室山京子)

姫路市香寺町における連携事業

今年度は香寺町と連携した主立った事業は行われなかった。ただし、地域歴史遺産を活用できる人材の育成の一環として開講されている、「地域歴史遺産保全活用基礎論 A」において、7月12日に香寺町町史研究室主宰の大槻守が、「書き残すことの意味― 地域で地域の歴史を書く―」というテーマで講義を行なった。

(文責・井上舞)

福崎町との連携事業

福崎町とは2009年度より共同研究を開始した。今年度は「福崎町の地域歴史遺産掘り起こし」と「大庄屋三木家住宅文献資料調査」という2つの共同研究に取り組んだ。具体的な活動については、以下の通りである。

1. 共同研究「福崎町の地域歴史遺産掘り起こし」 ・松岡静雄展への協力

2018年の松岡静雄生誕140年にあわせ、昨年度より資料調査を行ってきた。今年度についても継続して関連資料の収集・調査を行った。また、福崎町立柳田國男・松岡家記念館で開催された記念展「松岡静雄展―南洋に魅せられた海軍大佐―」(会期：9月15日～11月25日)への展示協力、および図録監修を行った。あわせて、11月10日には福崎町立神崎郡歴史民俗資料館の連続講座において、井上舞が「松岡静雄の学問―南洋研究について―」と題した講演を行った。

・その他松岡家関係資料調査

2018年9月1日・2日に中村文音(記念館学芸員)とともに、松岡静雄墓所(横浜市日野公園墓地)、井上通泰墓所・松岡映丘墓所(以上、東京都多磨霊園)の調査を行った。

また、松岡家に所蔵されていた書簡葉書について、継続して翻刻作業を行った。

・福崎町関連近代資料の調査

福崎町立神崎郡歴史民俗資料館の特別展「明治の福崎―福崎の近代化と明治の人々―」(10月20日～12月2日)開催にあたり、長谷川幸子(福崎町教育委員会)、高野恵理子(歴史民俗資料館学芸員)とともに、明治期福崎に関する資料の調査を行った。また、上記展示にかかる展示資料の選定、図録の監修を行った。

・中島区有文書の整理・調査

福崎町南田原中島に所蔵されている区有文書について、区長からの依頼を受け、今年度より調査を開始した。資料は未整理の状態だったため、まずは整理作業を行うことにし、毎月1回、地域住民らとともに整理作業を実施した。今年度は4箱ある資料のうち、2箱の整理を完了した。次年度も継続して整理・調査を行っていく予定である。

・広報での成果還元および報告書の作成

共同研究の成果還元の一環として、『広報ふくさき』誌上への寄稿を行っている。今年度は昨年度に引き続き松岡静雄をテーマとした。今年度の掲載月は2018年6月から2019年1月までの計8回であった。

また、今年度事業についてまとめた報告書を3月に発行予定である。

2. 大庄屋三木家住宅文献資料調査

昨年度の民俗資料調査に続いて、今年度は文献資料調査を実施した。三木家文書については1996年度以降数次にわたり調査が行われており、すでに目録も作成されている。今回の調査では、目録と現物の照合作業と、目録の修正を行った。また、大庄屋三木家住宅の特別展「三木家好学の当主―三木通深―」(10月6日～12月2日)への展示協力を行った。

文献資料調査の成果についても、3月に報告書を作成予定である。

猪名川町における連携活動

1. 猪名川町文化財審議委員会

木村は、任期満了により昨年度をもって同委員を退任したが、後任として地域連携推進室特命准教授の松下正和氏が就任された。

2019年2月11日、ふるさと館より松下氏へ同館へ寄託されている木食上人の書軸の撮影を依頼され、木村が作業の補助のため出向き、撮影を行った。また、急遽ではあったが、柏原自治会文書の調査もあわせて実施することができた。

2. 猪名川の古文書を楽しむ会

一昨年度より有志による自主運営で開催している同会の例会を今年度も、第3土曜日をレギュラーに実施してきた（8月は休会）。

（文責・木村修二）

大学協定に基づく大分県中津市との連携事業

大分県中津市は神戸大学の前身である神戸高等商業学校初代校長である水島鏡也の生誕の地であり、神戸大学のゆかりの地である。2014年5月に中津市で開催された水島校長生誕150年記念講演会をきっかけに、交流がはじまった。

2016年度に締結された神戸大学と大分県中津市との包括的連携協定の一環として、歴史文化領域では、昨年度中津市歴史博物館（仮称）推進委員会の委員長に奥村弘が、副委員長に松下正和（神戸大学地域連携推進室特命准教授）が就任した。また、近世展示アドバイザーとして、木村修二が委嘱された。今年度は、5月31日・6月1日み

新博物館展示の打ち合わせを行なった。また、委員会が2019年2月14日に開催された。

（文責・松下正和）

人間文化研究機構との連携事業

2018年1月に、神戸大学と東北大学と人間文化研究機構（基盤機関：国立歴史民俗博物館）との三者で、「歴史文化資料保全の大学・共同利用機関ネットワーク事業」（略称：歴史資料保全NW事業）についての連携協定が締結された。この事業は、歴史文化資料保全およびそのための全国的な相互支援体制の構築や、資料保全を担う人材の育成・教育プログラムの研究、地域の歴史文化の継承にかかわる大学の機能強化を主な目的としている。本センターは、中心拠点の一つである神戸大学大学院人文学研究科が行う事業の主導機関である。本年度は、全国的な広域ネットワーク形成にかかわる協議会・シンポジウム等を以下の通り行った。

・9月24日 歴史文化資料保全西日本大学協議会 於：新大阪丸ビル新館（主催：神戸大学大学院人文学研究科、人間文化研究機構、協力：科学研究費基盤研究（S）「災害文化形成を担う地域歴史資料学の確立—東日本大震災を踏まえて—」（研究代表者：奥村弘）研究グループ）

大阪北部地震・西日本豪雨の対応・現状および南海トラフ地震への対応・広域支援について西日本の各大学関係者と協議を行った。参加者は25人（18機関）。

・12月9日 地域歴史文化大学フォーラム 於：神戸大学瀧川記念学術交流会館（主催：人間文化研究機構（基盤機関：国立歴史民俗博物館）、神戸大学大学院人文学研究科、東北大学災害科学国際研究所、共催：科学研究費基盤研究S「災害文化形成を担う地域歴史資料学の確立—東日本大震災を踏まえて—」研究グループ（研究代表者・奥村

弘)、神戸大学地域連携推進室、国立歴史民俗博物館メタ資料学研究センター)

当ネットワーク事業における各大学の目的や課題を共有し、ネットワークのあり方について議論した。奥村弘が報告「西日本を中心とする神戸大学の本年度の活動と今後の展望」を行い、本センターの地域連携事業をふまえた広域ネットワーク形成について述べた。参加者は49人(26機関)。

資料保全を担う人材の育成については、神戸大学文学部古文書合宿(9月13～15日・於：神戸大学篠山フィールドステーション, 2月17～18日・於三木市旧玉置家住宅)において、学生への指導および古文書整理作業を当ネットワーク事業と協同して行った。

また、本センター主催の地域連携協議会(2月3日開催)につき、人間文化研究機構の共催を得た。

(文責・奥村弘)